

北東アジア 情報ファイル

ERINA (Economic Research Institute for Northeast Asia)

2015年6月

琿春～ザルビノ～釜山複合一貫輸送サービス開始について

中国からの報道等によれば、2015年5月に中国吉林省琿春市からロシア沿海地方にあるザルビノ港を経由して、韓国の釜山港に至る航路が開設されたと伝えられる。第1便は、ミネラルウォーターを積載した20フィートコンテナ10本(約170トン)が、5月22日に琿春を出発し、鉄道でザルビノ港に輸送された。同港で船に積み替えられた後、5月24日に釜山港に着いたとされる¹。

琿春と韓国とを結ぶルートは、かつて韓国船社・ドンチュンフェリー(東春フェリー)がザルビノ～ソクチョ(江原道)間に貨客フェリー航路を運航して輸送を行っていたが、2010年10月以降は輸送サービスが途絶えていた。今回、新たに提供が開始されたサービスは、中国企業「吉林省北東アジア海上シルクロード国際海運有限公司」が主体となって運営するものである。本稿では、同社がPR用に作成したパンフレットの内容に基づき、サービスの概要等を紹介する²。

1. 経緯・背景

「吉林省北東アジア鉄道グループ株式会社(以下、「北東アジア鉄道グループ」)」は1993年の設立で、琿春～マハリノ鉄道の中国側区間の建設と運営を行う会社である。

2013年12月17日、琿春～マハリノ鉄道は正式に通常運行を回復し、2014年の1年間に、その鉄道口岸³を経由して輸入したロシア産の石炭は60万トンを超えた。また、2014年5月14日には、中国からのコンテナが琿春～マハリノ鉄道を経由して越境輸送され、この試験輸送任務は成功裏に完了した。

琿春～マハリノ鉄道の運行の回復は、琿春からザルビノ港に至る区間の輸送モデルを変えた。輸送効率が高く、運賃が低く、便利で速い通関のソフト・ハード面の環境は、吉林省が実施する「借港出海(港を借りて海に出る)」戦略を実施し、コンテナ陸海連絡輸送および国内貿易の物資を外国に輸送する航路を展開するための基礎をうちたてた。

港湾は陸海複合一貫輸送プロジェクト実施のための重要な輸送の結節点である。対外輸送ルートのネックを解決するために、北東アジア鉄道グループは直接ロシアのザルビノ港

¹ 琿春市人民政府運営サイト、2015年6月3日確認。

<http://www.hunchun.gov.cn/archives/15947/>

² パンフレットはサービス提供者の計画・方針を示したものであり、現実の運航は異なるものとなる可能性も相当あると考えられるので、その点に留意が必要である。

³ 「口岸」は、通関・出入国検査などを行う国境検問施設のこと。

への投資・建設協力に参画し、ロシアのトロイツァ港株式会社と共同で 2010 年 8 月 18 日に「ザルビノ国際合資有限会社」を設立した。この合資会社はコンテナの越境陸海複合一貫輸送プロジェクトの実施における主要な会社であり、中ロ企業による協力運営プロジェクトを実現し、港湾設備・機材を効率よく利用することを可能にし、航路開設の力を強化した。

北東アジア鉄道グループは、これまでにザルビノ港に累計 3000 万元近くを投資し、同港 4 号ふ頭のコンテナ貨物蔵置場 (5000 平方メートル)、構内道路 (5200 平方メートル) および排水系統の改造工事を完成させた。インフラ整備と同時に同港に 45 トンのリーチスタッカーとフォークリフトを各 1 台輸出して、港の設備の現代化レベルアップを実現した。現在、ザルビノ港は、陸海複合一貫輸送プロジェクト展開に必要なインフラ・設備の条件を既に満たしている。

2. 事業主体

「口岸」と「港湾」が連動するという有利な条件を発揮し、地域の鉄道・海運の連結輸送ルート開通を速やかに実現するために、北東アジア鉄道グループは 2014 年 2 月、1 億元を出資して「吉林省北東アジア海上シルクロード国際海運有限会社」を設立した。この会社は吉林省内ではじめて現地企業が設立を申請した海運会社である。

同社は海洋航路の開設の任務を担うと同時に、陸海複合一貫輸送プロジェクトのプラットフォームとして事業を推進していく予定である。

3. 輸送サービスの概要

「釜山航路」は、鉄道と海運を組み合わせた陸海複合一貫輸送モデルで運営される。具体策には、琿春～ザルビノ港間は定期鉄道列車による輸送、ザルビノ港～釜山間は定期コンテナ航路で輸送する。

当面は、週 1 便の定曜日ウィークリーサービスを提供する (表 1)。ただし、航路の発展に伴い、将来的には若干のコンテナ船を追加購入して航路を充実させることで、一週間に複数回の出荷を求める顧客の要求を満足させることを考えている。運賃は表 2 のとおりである。利用する船舶は、1998 年ドイツ建造の貨物船で、総トン数 4.246 トン、喫水 7.28m、全長 99m である⁴。

⁴ インターネット上にて確認できる船舶の航海記録および船舶諸元をたよりに該当船舶を検索したところ、KARIN という船名の在来型貨物船であると特定できた。在来型貨物船であっても、コンテナ積載は可能である。



表1 輸送スケジュール

木曜日	琿春集荷ヤード発（中ロ国境通過）
土曜日	ザルビノ港にて本船積込、出港
月曜日	釜山港到着

表2 運賃

発送地	運賃				為替レート
	20 フィート		40 フィート		
	ドル	人民元	ドル	人民元	
琿春	985	6200	1445	9100	6.3
延吉	1055	6700	1540	9700	

(以上)